京城新報

陰曆 十二月十五日

發行兼編輯人 山下英[illegible]

發行所 京城新報社 電話六六三

朝鮮大官 日本旅行記(一)

李書房

余は李朝五百年來の名門の子孫なり、六回の外職として、十代の何書として、又近くは從一品としての家門たり、余の母は皇族の血統を帶ぶ、余の父は大臣より觀察使となり、從二品にして郡守たり、余は昨夜身曾より御召にし、近く日本視察を爲すべく命ぜらる。

日本、是れ久しく余が厭へる國なり、余が叔父は日本開化黨の爲に殺害せられ、余が從弟は日本人によりて家産を蕩盡せり、余が今日此視察の大命を受くるに至りしは余が日本の血統と歴史を有せることを知召し玉ふに由るならん。

日本に到りて何事を視察し得る、彼の飢餓せる亡命者は必ず蕃交あれば余か懷中を搜索すべし、彼の學生等は余が名門たるを知れば若干の寄附金を强請すべし、曾て漢城の外交官たりし某は、今や顯要の大官となりと聞く、余は宜しく彼を訪問して日本の外交官たりし某は日本旅行の經費を幾何の代金にて命じ玉ふやら、余は此行程を利用して一は皇室に深入して權勢を獲るの手段と爲すべく、又一は日韓議會の日本黨の仲間入を爲すの方便と爲すべし、唯だ此上も無き好伴侶を得ず幸運大に開ける顯利夢の如く湧くのみ。

聞く統監伊藤公は今や漢城の寒氣を避けて東京に在り、余は我門客より伊藤公の統監更迭説を耳にせり、恐らく是れ公の老輩は久しき重責を許さぬことなるべしと雖も日本も亦た内に權勢爭奪の回轉機によりて大官の消長あるべし、さても出發は此月三日と定めたり、一行合せて五人、余は其長官にして、隨員中異分子は朴判書の從弟朴俊恩のみ、彼は位低しと雖も、近頃日本黨の要職に在り、彼は南村探情を以て功勢少からぬ男なり、彼は余と均しき使命を有せるならべく、其外今後領韓局長は余と利害を同うせる門客同樣の男なり、通譯李主事は、吾の上に黃金を捲き込む外に何等の疑念なし、斯く定められたる日程の前一日に揚州に抵りて祖先の墓を辭して山祇一萬里の安全を祈り、今宵は其出發の眠なしぬ、皇帝は手づから三千圓の銀行券を賜はりたれば往復一千圓を以てし、二千圓は何かの使途に用立べし、三日の朝は家門を出で、南大門驛に至り、車騎十、老少幾百或は追うて水原に來りて訣別し、或は迎へて達城の宿舍に來りて勞を慰せり、車中一等の客中日本人二名、洋人一名、婦人一名、喃々として婦人の大笑せる樣、日本人の傲慢にして沈默せる、余は時々二等室なる朴侍從を訪ふて我國士の平和安康を語りぬ。

早くも汽車は草梁に着し、生來尤も厭へる汽船に搭座しぬ、曾て泣別せる蒼海の一夕は余に取りては無限の感情を惹き對馬州は過ぎて翌朝船は下の關に着しぬ。

殖民と出稼人(二)

稻田周之助

出稼勞働者といふ中にも技能なき勞働と云ふものは之を使役するものから是れは安い賃銀を與へて其の自然力を利用する、つまり機械を使ふよりも廉價で牛馬を役するよりも便利であるから、といふに過ぎない其技能なき勞働者を一定の契約で傭入れる所謂契約勞働者といふものに至つては往々にして人權若くは人道上の問題を惹き起すので北米合衆國では契約勞働者を使役することは國禁である英吉利は本國は勿論殖民地でさへ之を嫌つて居る例のランドの支那人問題といふのが即ち是れであつて英國の政治家中には奴隸制度の再現とまで極論して居るものあるから理窟は立て樣で何とも言へるにせよ今日となつては我國とても最早契約勞働者を英米諸國若くは其殖民地へ出すといふことはできない、啻に契約勞働者のみならず機械がはり畜類がはりに使役さるゝ下等勞働者なども成るべくは出したくない英吉利は我同盟國北米は準同盟國で我は世界の一等國だと云ふ以上は錢勘定の外己れの品位を保つことをも工夫せねばならぬ、以上は專ら出稼勞働者の事であるが然らば殖民とは如何なるものであるか、

吾輩は今此の殖民の定義や由來を述ぶる必要は無いが、國民が本國から出て新たなる土地の上で仕事をする其仕事は當事者自身の爲めであると同時に本來の國家及び國民の利益になるといふことが殖民の要件である此要件があるから國家も國民も殖民の爲めに幾多の負擔の勞作を吝まぬのである然らば國家國民の利益とは何を指すか勿論本國の過剩人口を移植すると云ふ便益もあるに相違ないが是れは決して唯一の目的ではない、ヨシ之を目的としても之を遂げた例がない、現に英獨の諸國が是れまで殖民地經營をやつて來たけれども、本國の人間の出で行くものは極めて寡い、併ながら其外に本國を利する所以のものは一二にして足らない、乃ち今日の文明國の多くは自分の國內に產出する食物では其國民を養ふに足らないから、殖民地を得て食物を供給するの源淵と爲る又本國の工業が發達して來れば其の原料品を產出する地を求めねばならぬ、其他本國の商品の分量を增し經濟の勢力範圍を擴むるといふことも殖民政策の自然の結果である、英國は今日は專ら食物問題で苦勞して居るが、嘗て佛國と事を構へた時に海運が止ツた爲めにランカシエアの紡績場が半歲休業したといふ苦い經驗を持つて居るから彼の殖民政策には國防政策は何時でも食物原料等の問題が割り出されるのであるが、彼にして若し手近い處に食物原料品の供給地があつたならば是等の政策は等閑に附し去られたかも知れぬ

撫順炭の現在將來

▲注文の現況 昨年滿鐵會社開業の當時に於ては撫順炭に對する社外よりの注文は絶て無かりしも爾後漸く一般の注目を惹きて昨今に至りては續々注文を受け主として遼陽奉天開原寛城子營口等の南滿各地より一月平均七八千噸の申込に接するの盛况を見るに至れり尚外國側よりも既に二三の注文あり最近の分はカビンガー號積込の五百噸にして此內百五十噸は積込を了り濠堡亞米利加線のパンダリヤ號にも千五百噸買込の契約成れりと

▲採掘の數量 從來採掘の方法は俗に狐掘と稱する幼稚なる方法にて掘鑿力少く且碎粉多かりしも今回凡て竪坑式に改め松田坑長河相技師監督の下に漸次設備を擴張して昨今は月二萬六七千噸の採掘を見るの域に達し來りたれば社內の需要月一萬噸を差引くも尚一萬六七千噸は之を社外に供給し得べし因に目下の坑貯炭は約四百万噸なり

▲輸送力 目下の貯炭高と將來の剩餘高とは前項の如くにして更に角引繼當時と異なり多少は社外の注文に應じ得る次第なるが現在に於ては輸送力未だ十分ならず即ち列車運轉の回數も多からず一列車の牽引力も錦州炭の如きは五十車に及ぶも滿鐵にては二十五車を超ゆるを得ず加ふるに目下豆粕出盛の時季に際し到底石炭の方にのみ力を專らにするを得ず斯る次第なれば會社にては貯炭の多少に拘らず社外の注文は直に之に應ずるを得ざる場合多く現に昨今の如きは來二十日以後若くは二月を期して送炭する條件を以て契約し居れり

▲炭質の試驗 撫順炭の炭質良好なることは既に世の知る所なるが要するに可燃分に富みて硫黃分乏しく船舶の燃料としては最も適當なりといふ尚會社は最近に三百五十噸を東洋汽船會社に托して試燃せしめ居れば遠からず實地に於ける優劣判明すべし

▲將來の販路 撫順炭將來の販路に就ては世界の問題に上り或は開平炭、日本炭若くは將來新に發見せらるべき支那大陸の炭層等に對抗して果して能く勝利を博し得べきやを疑ふものあるも元來滿洲全土に於ける需要は將來實に幾何の量に上るか測るべからざるものあり即ち防寒用庖厨用として現に使用し居れる高粱に比し其代價强て高からざる程度に於て之を得ば高粱の耕作は全く跡を絶ちて一層有利なる農作物之に代ると共に撫順炭の需要は恐らく非常の額に上るべし東洋各地に於ける競爭の如きは必ずしも憂ふるを要せざるなり

ステッセル裁判(五)

有史以來の大審問▲露國陸軍の內幕▲日露戰爭最後の悲劇▲旅順要塞開城事件

起訴狀朗讀の後判士長ドウクマツフ將軍は被告等に向ひ、彼等が起訴文面の罪跡を承認するや否やを問うて、更に起訴狀の各項を箇別に朗讀したり。フオーク中將、スミルノフ中將及びレイス少將は如何なる點に於ても自己の罪跡を承認せざる由を答へたり。休職中將ステッセルは判士長の問に對し稍長く答へて曰く、

『只今起訴狀を聽聞して被告は數多擧示せられたる罪跡の中如何なる點に於ても自己の罪責を承認せざることを茲に高等軍事裁判に上申す。被告はロープ將軍の委員會より、會の存續中一年四箇月の間證人の資格を以て召喚せられ、且審問せられ、斯の如くにして自己の側よりの證人を召喚する事に就ては一言も表明するの權利を有せざりき。唯だ今日に至りて始めて被告の證人は何事をか證言するを得るのみ。起訴狀に現れたる罪跡の多くは是れロープ將軍の委員會に提出せられたる前旅順要塞司令官スミルノフ將軍の上申より取られたるものなり』と。

暫時休憩の後、午後二時二十分に至り總ての證人を召喚して、判士長は彼等に向ひ、何人か被告と親類若くは姻親の關係に非ざるか、又彼等と訴訟的關係に非ざるかを問ひたり。問に應じて先づ證人ベールイ中將は答へて曰く、

『本證人は姻親の關係に在り。本證人の娘はステッセル將軍の子に嫁ぎ居れり。本證人は此事を證言若くは宣誓を辭退するの目的を以て表明するに非ずして唯だ判士長の問に答ふるに過ぎざるなり。』

次に證人ノージンは立つて曰く、

『本證人は誹毀事件の爲ステッセル將軍を彼得堡區裁判所に引致すべきことを請願したりしが、裁判は本證人に告ぐるに、本件は高等裁判の宣告の後に調査すべきを以てしたり』。

ステッセルの辯護士陪審官スイルトラーノフは曰く、

『本辯護士はノージン君を宣誓の際審問すべきことを固く申請して止まざるなり。本辯護士の知り得る限りに於てノージン君の誹毀事件に關する請願は既に起訴期限二箇年を經過したるを以て無効なり。本辯護士が宣誓の際ノージン君を審問することを申請したる理由は、同君の不正なる證言がステッセル將軍の爲に同君の責任を問ふべき保證たるを以てなり』。

斯て裁判官は暫時相談の後ベールイ中將を宣誓より自由にすること、ノージンを宣誓の際審問することを決定したり。蓋し裁判所にはノージンのステッセル將軍に對する訴訟の書類無ければなり。

韓國經營の第一義

鳥谷部銑太郎

米國の日本移民排斥問題は今や日本政治家の肝腦を痛ましむるのみならず同時に米國政治家の煩悶を惹き起したり道理よりいへば此の問題の是非曲直は一目瞭然たるに拘らず其の解決の頗る困難なるを見るは何ぞや世人は大統領ルーズベルトの公明と誠實とに依賴して移民問題解決の日本の不利に歸せざるべきを信ずるものなりと雖も彼は畢竟共和國の政治家なり彼は道理を重むずると共に又國民の多數意向をも考慮せり日本移民の排斥は固より米國上流社會の輿論に非ず米國の智識階級及び資本階級は寧ろ移民問題の爲に日米の友情を疎隔するの愚なるを認識して其の解決の圓滿ならむことを希望するの狀あり排日運動は事實に於て米國勞働者の嫉妬に淵源し之れを助くるに職業的政治家の煽動を以てしたるに外ならずと雖も此等勞働者の感情は米國政治界に於て輕視すべからざる勢力を有するが故に如何に公明誠實なるルーズベルトを以てするも假に日本移民排斥の非擧たるを理由として一も二もなく彼等の要求を否定するは恐らくは其の甚だ難しとする所なるべし激烈なる國際經濟の競爭は列國をして往々一種の攘夷的政略を施行せしめずむば止まざるの勢あり移民排斥問題の如き亦其の一端たるに過ぎず。されば米國及び加奈多に於ける日本移民は結局或る形式に制限せらるゝの運命を免がれずと見て大差なかるべく事茲に至りては我が過剩人口の移殖地として別に適當の方面を選定するを最も聰慧なる經世策と爲す而して吾人は適當の移殖地として既に韓國を有するに非ずや現在韓國に住居する日本人は未だ八萬を超えず若し當局者の保護獎勵宜しきを得ば毎月一萬以上の人口を內地より移殖すること敢て期し難きに非ざるべし世人動もすれば日韓同化を唱道すと雖も日本人にして多數を韓國に占めざる限りは日韓同化は言ふべくして行ふべからざるものたり小數資本家の力は固より日韓同化の實効を奏する能はず百萬の資本を輸入するよりも百人の人口を移殖するは却て日韓同化の氣運を早むるを知らざる可らず是れ韓國經營の第一義なり。

小說

絃のみだれ(五十)

永井櫻園

抑も其後さる程に、山田邦男は清之助と叔母の關係が新聞に掲せられてより、何卒叔母の目に觸れ耳に入らなければ宜いと、戰々として心配しつゝある中、何うして新聞を見たものか、和田垣の家では東京タイムスを購讀しないゆゑ、何處からか聽出して買求でも爲たのであらう、新聞に出てから丁度三日目の朝であつた、平常から何彼に附て小意地の惡い叔母は、一室に呼んで彼の新聞を目先に突附け、叔父さんから君も自分の留守中に不都合な事でも爲たら、その日限り放逐して了へ、決して學費など與つてはならないと堅く命令されて居る、と云ふ口實の下に、僅か十圓の金子を與れて、その日限り和田垣家を放逐されたので、嚮に罪したさて聽容る叔母ならぬ事は豫てより承知して居ることゝて、一時は途方に暮れたものゝ、他に賴るべき親戚があるのではなく、考へて見れば自分も既に二十五にもなつて、首尾克く行けば今年は美術學校も卒業するのである、他を賴るなどは抑も薄志弱行の骨頂で、万難を覺悟さへすれば、習ひ覺えた彩管で獨立獨行の能ない道理もあるまい、と志を決してろのまゝ荷物諸共和田垣家を去つて、以前友人の下宿して居た頃屢々訪れて顏馴染になつた下宿屋が、今も尚三田の四國町で矯に下宿業を營むで居るゆゑ、取敢へず荷物も自分も車に乘つて押込むで往つた、その下宿屋は四國館と云ふ二階建の手廣い家で、慶應義塾に通學する生徒が定客の大部分を占めて、いつも三十人位は下宿して居るのである、幸ひ空間があつたので其日から此家に下宿したけれど、何故か和田垣家は勿論親友にも轉宅先を報じなかつた、其翌日自ら美術學校に往つて退學の手續を濟し、それから後と云ふもの下宿の一室に閉籠つたまゝ、一心不亂に彩管を揮ふて入浴に出掛ける外は一寸も外出しない、殆んど清之助の事など忘れたかのやうである、されば全く忘れたかと云ふに、なか〳〵に忘らるればこそ、思は和田垣家に居た當時よりも彌增して慕はしけれど、この後は下宿料は固より衣類萬端に至るまで、悉く自分の腕一本で稼ぎ出さねばならぬ境遇であれば、無名の青年畫家としては容易ならぬ心配である、迚もこれまで清之助を贔負にして遣つた如き所業は夢にも爲られない、爲られないほどならば何の面目あつてれめ〳〵寄席に出掛けられやう、況んや清之助の自宅に於てれやだ、此處暫時は美神に捧ぐる貢物のために一心を傾倒して、多少の名も顯し、僅に獨立するだけの報酬を得らるゝやうになつた曉に再び面會爲やう、それまでは假令清之助のために心の亂るゝ如きことあるも、斷じて寄席に足踏をせぬ、誓つて渠に面會せぬと決心したのであつた、されど煩惱の犬は追へども去らず、人の噂に聞き又日々の新聞で清之助と云ふ名を見る度毎に、有し昔を思ひ浮べて、日比谷公園で兩個がそれとなく思のたけを語り合つて行末を契つた事、雛の夜東橋亭からの歸るさに、更科の二階に樂しく語り合つた事など、それよりそれと幻影のやうに描き出して、思はず筆を抛つて太息を洩らす事も幾十度であつたらう、或時の如きは、自ら招いた境遇とは云へ、その運命の果敢に繪絹の上を涙に汚した事もあつた、かくて渠は密に清之助を慕ひながら、運命の墻に隔てられて、孜々として彩管を揮ひつゝ早くも二三ヶ月を送つたのである、しかるに俄然計らざりき、禍は渠が身に降り罹つた。



京城新報

日本語の普及

曾てビショップ、ハリス博士余輩に語て曰く日本が文明の宣傳者として韓國に臨むに於て最初に爲さゞるべからざる事業は、韓國民に對する日本語の普及なり、何となれば韓國民をして近世思想を了解せしめんとせばまづ彼等に日本語を解せしむるの必要あればなりと、宜なりハリス博士は身米人にてありながら英語の普及を望まずして却て日本語の普及を望み博士自身が關係を有する在韓ミツシヨン學校に於ては韓人生徒に向て日本語の敎授に重きを置きつゝありと云ふを。

數年以前余輩のマニラに遊ぶや時のフヰリピン總督は今の米陸軍大臣タフト氏なりき余輩一日氏の門を叩き質すに菲島啓發上最大要務の何たるを以てす氏答ねて曰く开は云ふまでもなく英語の普及なりと、而して氏は言を進めて曰く何を言ふにもフヰリツピン土人が古きスペイン語を用ゐ居る間は到底彼等をして近世文明の光明を認めしむること能はざるなり、何となればスペイン語は中世紀的にして退歩的なり、此中世紀的にして而かも退歩的なるスペイン語によつて養成せらるゝところの土人の思想が中世紀的にして亦退歩的なるは理の正に然らしむるところなり、故に余はフヰリツピン啓發の先鋒的事業として全群島到る處の公立學校に於て盛に英語を敎授せしめ土人をしてスペイン語を捨てゝ英語に就かしむることを計り居れりと。

予輩半島の地を踏んでより僅かに二年、此間絶えず韓語の稽古に浮身を窶したりと雖も未だ日常普通語の外に多く語るの智識を有せず從て韓語に就て言語學上の議論を爲すの資格を有するにあらずと雖も彼のハリス博士が言はれたるが如くまた彼のタフト氏がスペイン語に就て言はれたるが如く永く世界の文明と接觸せさりし韓語が甚だ中世紀的に甚だ退歩的にして到底近世思想の交信に用を爲さざるは余輩の認めて疑はざるところなり。

思ふに韓國啓發の上に於て爲すべきの事業多々あるべしと雖も最も韓人の幸福に關係を有するものは彼等をして近世思想を了解せしむることにあるべし、而して彼等をして近世思想を了解せしめんとせばまづ順序として彼等に對して日本語の普及を計らざるべからず。

今や喜ぶべき報知は來て余輩の耳朶を搏てり、开は他にあらず韓國敎育の當局俵學部次官は學校に於て將講習會に於て鋭意日本語の普及を計らるゝこととなり、聞く次官は曾て琉球にありたるを以て同島の土人と日本語との關係を良く知悉せらるゝと云ふ氏幸にして今時韓國の敎育を總攬す願はくは將來の光明を想察して百難を排し大に日本語の普及に力を致されんことを余輩の切望に堪ざるところなり。

東京電報

▲明年度豫算內示

西園寺首相邸にて明日午前に貴族院議員の代表者を午後衆議院議員の代表者を招き明年度豫算の內示をなす(十六日夜着)

雜報

●內閣動搖の根源 阪谷藏相と山縣遞相の辭職は東京電報に依り既に報せし如くなるが其辭職の根源は鐵道費に起因し最初遞信省にては四十年度より五十二年度迄十二箇年に亘る鐵道建設改良費の內既定豫算額一億三千八百萬圓追加豫算額一億三千四百萬圓餘合計二億七千二百萬圓餘を請求したるが此の內前者は從來の官設鐵道に關し後者は買收鐵道の分に屬するものなり然るに舊臘四十一年度豫算に於て事業繰延と決したる結果大藏省に於ては該年度分の追加額を全部削除し其の事は閣議の際遞相にも告げて承諾を得たるものと思ひ居たるに遞相は既定額の分と同じく其の內若干の繰延は已むを得ざるものと承知し居たるも全部削除の事は夢にも知らず隨つて舊臘の鐵道會議にも總て此の方針を以て計畫を立て附議したる次第なるが近日に至り端なく兩者の間に意思の行違あることを發見し數回の押問答ありしが遞信省にては既に夫々計畫を進行したる今日全部の繰延は到底出來難しと固く執つて動かず遞相の辭職沙汰は此の時に流傳せられしものにして其の金額は豫算額同樣若干の繰延を行ふとしても尙六七百萬圓補塡を爲すの途なく過日來首相と藏相との奔走は尤も之が爲なりしも遂に何等の解決を見るに至らず其の波瀾延いて首相に及び遂に參內辭表の提出に及びしものなりと

●副統監の德壽宮參內 曾根副統監は太皇帝陛下より御下賜金の御禮の爲め前間通譯官を從へ午後四時十五分德壽宮九成軒に參內御禮を言上し四時三十分退出せられたり

●高橋武官の仁川視察 高橋侍從武官は豫定の如く昨日零時四十分仁川驛着列車にて下仁し理事廳及陸軍運輸部を視察せられ一時四十分の列車にて歸京されたり

●高橋慰問使出發 侍從武官高橋義章氏は本日午前九時二十五分發列車にて平壤新義州方面慰問として出發せらるべし

宮內府大臣彈劾

宮內府大臣李允用が漢城銀行の副頭取たることは世人の普ねく知るところなるが元來韓國の法律にては宮內府大臣が營利的商行爲をなすを禁しあるを以て目下李完用兄弟を排斥せんと企て居るところの某々等一派は李允用の違法行爲に關し韓皇に向つて近々彈劾の上奏を爲すべしと云ふ

韓美電鐵の認許狀

コールブラン氏が唯一の楯となすところの韓美電氣會社の認許狀は到て不完全のものにて世人の想像するが如く京城電車事業の獨占權を與へあるものには非ずと云ふ

●京城監獄竣成 韓國從來の監獄設備は頗る不完全にして今日まで屢々修理改築等の議起りしも實行するに至らざりしが明治三十九年五月中法部及警務廳は協議の上度支部勝又技師に囑し調査に着手せしより遂に改築に決し昨年十一月を以て新に獨立門外西北山麓の一地區を相し整理せる建築の竣成を見るに至れり構內面積九千餘坪其建坪四百七十六坪工費四萬五千餘圓を要せり建築中の主要なるは未決監倉女囚監倉病監及傳染病監絞刑場職業場炊事場浴室事務室倉庫等十四棟にして監房は通じて四十九室參百九十二人を容るゝべく一時的收容せば優に四百六十人を收むるに足れり以上の建物は頗る經濟的にして且つ最も便利なる設計にして防寒凌暑の設備あり監倉は看守に便にして監扉は一定の錠前を施し事故あるときは一の鍵を以て齊しく開放し得るの設備は多少注意すべき點なりとす特に絞刑機の効力を確實ならしめ短時間に苦痛を脫することを得せしむる筈之を要するに監獄の通患たる位置の不適當監倉の狹隘幽暗不潔を改善し警戒を便にしたると同時に囚徒の健康に注意したる技師の苦心は一般に多とせざるべからず

仁川取引所の改善

再昨日午後五時仁川米豆取引所樓上に於て株主總會を開きたるが總株主二十一名の內十四名出席ありたるが先づ四十年の決算報告をなし滿場異議なく可決し次に市場振興策として營業細則を變更するの必要あるため役員會を開き左の如き議決をなしたり

一、從來受渡米は兎角惡質なるもの多きを以て之れを防ぐ爲め標準米より良品を受渡したるときは一定の奬勵金を與へ若し標準米より惡質なるものを渡したるときは品質より生ずる差額の追徵金を徵收する事

二、從來現米の受渡は無叺なりしが今後一切叺入りとする事

三、證據金は先物六十圓中期九十圓現當百二十圓なりしを先及中を六十圓とし現當を五日目毎に三十圓を徵收する事

右終りて役員改選を行ひたるが總て重任し只監査役として桑野良太郎氏が百八票にて當選せり

●安東縣納骨堂 過ぐる戰役に於て我忠勇の貔貅が幾萬の屍を馬革に包んで芳烈の武名を後昆に殘したる其遺骸は總て火葬に附せられて故國に送られ忠魂は長へに護國の神となりて靖國の社に祭祀さるゝさ雖もその一部の殘灰は茫漠幾百里滿洲の野に山に到る處として殘骸の存せざるなく此處の丘彼處の陵悲慘の跡を印せざるはなし當時滿洲軍兵站部の在りし處には必ず忠魂紀念の碑を建て英靈を吊するに遺憾なかりしと雖も日逝き月過ぎ歲次の經過するに從ひ四邊の狀態は日一日變遷を來たし平和克復後に至りては兵站部の引上げとなり軍政署の撤退となり或は守備軍隊の移轉等よりして各地に散在する此等忠魂碑の所在地にして空しく無人の境と化したるも少なからず殘煙荒草人の吊ふものなきの狀況に立至るは心あるものゝ齊しく痛歎するところなるが當局者は大に此に觀る所あり主要の地に納骨堂を設け附近に散在する各地の殘灰を一所に集め其管理を便ならしめ四時の祭祀を絕へざらしめんと旅順、大連、遼陽、奉天、安東縣の五ケ所に納骨堂を設け或る區域を限りて殘灰を收容せんと其整理に鞅掌中にして爾來次を追ふて各地とも其緖に就きつゝあるが今安東縣に於ける狀況を聞くに現時沙河鎭の丘上に建設の「明治三十八年戰役戰死病歿者殘灰合埋之碑」を改めて安東縣納骨堂となし本溪湖以東橋頭、鳳凰城、湯山城、九連城等の各地に散在する紀念碑下にある殘灰を集めて合祀する筈にて都督府陸軍經理部安東縣出張所にて專ら調査中なるが第一に煩雜を感ずるは合理者の名簿調製にして其戰歷等を詳細に記入し一目の下瞭然として經歷を知ることを得せしめ親戚故舊等の有緣者にして來つて其跡を吊ひ其碑に詣でんとするものあるものは詳かに事歷を說明するに足るべき程の明細なる調査を爲さゞるべからざると人員の夥多なるによりして一朝一夕に終了し得べくもあらず鋭意整理中なりと云ふ

浪川守備隊の奮戰

浪川守備隊長は一月七日午後三時分遣所巡查部長よりの報告により軍養岱附近に暴徒集合するを知り討伐のため午後四時下士以下廿七名を率ひ出發し午後七時賊の倉村に轉進したる情報を得急進し八日午前四時同村に宿營せる賊二百を急襲せり賊は同村東西の高地に據りて頑强に抵抗したるが遂に之を擊退す賊は遁走の際同村民家に火を放ち時に風勢烈しくために該村の半部を燒失す小隊は逃ぐるを追ふて午前十一時全く四散せしめたるが賊の大部分は韓兵なるが如く銃器は三十年式及モーゼル銃にして彈藥又豐富なるが如く此の戰鬪に於て賊の死三十鹵獲品乘馬二銃二彈藥若干我に損害なし

●陰城方面の賊 陰城守備隊は十二日午前十一時陰城西南方約三里龍塘に於て大部は韓兵より成る約七十の賊を襲擊し其の二十名を殪し尙追擊中なりと

●原州の暴徒 原州山本小隊は十日午後五時頃橫城西方「カコツインケウ」附近にて賊四十名と交戰し殆んど其の全部を殺傷す賊の死体二十一鹵獲品銃十六背囊十三

●賊を擊退す 去る十三日匪徒約百五十名淸河郡巡查駐在所を襲ひたるも巡查五名兵六名と協力擊退す賊八を殪し捕虜一、銃十三、火藥等を鹵獲せり

●賊徒を捕ふ 潭陽邑駐在巡查は一月一日同邑を襲ひて負傷したる賊徒同管內に潛伏せるを發見し本月七日其の一人を捕縛取調中なりと尙同日右暴徒襲來の際在留日本人の財物を竊取したる賊二名を捕へ贓物の幾部を押收せり

●水產會社員の遭難 東京水產會社員內田忠光井田義彥小野乙輔の數氏は北韓漁業の視察に赴き雄基方面より歸航中昨年十二月廿日咸鏡北道集王沖に於て暴風雨に遭ひて進路を失し避難の途なく遂に船体覆沒するに至りしも前記數氏の乘組員五名と共に僅に身を以て陸上に逃るゝを得たりと而して該船の噸數及び損害高等は未詳也

昨年中韓國各港貿易額

仁川稅關の調査に係る昨年中韓國各地に於ける輸出入總額左の如し

輸出	輸入
一六、五九〇、三二一	三九、九〇〇、三六〇

內左記各地の內譯を擧ぐれば

	輸出	輸入
仁川	四、五四一、三五〇	一九、五〇八、三三三
京城	四、一五六	一、三二〇、七三三
釜山	四、三五二、六〇五	八、七四二、八〇四
鎭南浦	一、九四九、九六〇	三、九〇三、一九五

尙群山、木浦、馬山、城津、新義州等の貿易額は之れを略す

日本人の土地購買力

在京城本邦人の土地購買力を調査せしに昨年四月一日現在は

宅地 十五萬九千三百十一坪餘
畑地 三萬五千六百三十一坪餘

なりしが本年一月一日現在は

宅地 二十二萬三千七百四坪餘
畑地 九萬五千八百八十六坪餘

にして此の九ケ月に於て實に

宅地 六万四千四百二千二坪餘
畑地 六萬二百五十五坪餘

の增加を見たりといふ

●勸農會の耕作不良 仁川に在る勸農會に於ては從來農事の耕作を直營し來りたるが今日迄の成績に見るに收支相償はざるを以て今後一切小作人に貸渡し一定の地代を徵收する事に決したりといふ

●鎭海灣と第一銀行 鎭海灣は我海軍の根據地となりしかば同灣の地域を他に擴張すべしとの說ありしが第一銀行に於ては昨年熊川郡に屬し馬山浦に向へる泥洞、造川洞、鳳岩津に至る區域を三十萬圓を投じて買收したるが其面積最も廣漠にして馬山浦との交通亦た頗る便利に小蒸汽に依るも三十分間を要せずして到達し得べき形勝の地なりしも同行に於ては之を農民の耕作に委し其收穫中より普通小作法に依りて收得し來りしも飮料水に乏しき爲め開拓者も一時躊躇せしことありしに今回更に二十萬圓を投じて地區を擴張することゝなりしが偶然にも良水を得たるより最初の目的通り愈よ土地の買收をなすことに決したる由

●鴨綠江岸の作蠶業 新義州津里面農事試驗場々主那須文五郎氏は殖產事業に非常の熱心家なるが先般來同地方面に作蠶放養に最も適せし檞木(柏)繁茂なし居るを見對岸の淸國に於ける作蠶業の盛大なるに關せず韓人等は只年々伐採して燃料となすのみにて天與の富源を眼前の小利に奪ひ去られつゝあるを歎じ指導啓發の目的を以て蠶兒放養に最も適したる古邑面に於て檞木山所有韓人に對し作蠶事業及木炭製造等は永遠の事業にして將來莫大の利益收獲あるを說き勸誘せしも前年來奸商の爲め屢々詐僞に係り損害も少からざれば容易に信を置かざりしが氏は屈せず百方說明の結果共同經營の目的にて契約を締結するに至りし由にて昨年來伐木を禁じ樹木の繁殖に務め本年より蠶兒放養の準備をなしつゝある由契約山林は四ケ村に涉り面積數百町歩に達す可し茲に數年間樹木の保存に注意せしめば多大の蠶兒放養に差支へなかるべく且つ山田氏等組合事業として大々的の計畫を爲しつゝあれば漸次好果を收めたらんには韓人等も斯業に着手すべく早晚淸國作蠶と相對し好箇の財源たるに至るならんか因みに那須氏は目下農事試植の傍ら果樹及山林苗木試植中の由にて作蠶放養地として不適當の場所は木炭製造法を敎示し跡地及附近の裸山には適當の苗木植附の計畫をなしつゝある由

●度支部各分課長 新分課規定の實施と共に度支部各分課長は左の如く任命せらるゝ筈なり

大臣官房	秘書課長	金命圭
	文書	吉松憲郎
	會計	久芳直助
司稅局	統計	李度榮
	稅務課長	藤川利三郎
	經理	俞承兼
	監査	成夏剛
司計局	豫算決算課長	小林重
	主計	具義書
理財局	[illegible]銀行課長	閔泳五
	國庫	河內山樂三
	監視	櫻井小一
臨時財源調査局	調査課長	赤倉吉三郎
	量地	韓圭復

●度支部次官代辨 荒井度支部次官は一昨十六日上京したるが其不在中は長濱關稅局長事務の代辨を命せらる

●鈴木司稅局長の歸期 新任度支部司稅局長鈴木穆氏は今回令弟死去の爲め至急歸鄕中なりしが來る二十日頃歸任さるべし

●中山書記官兼勤 統監府書記官中山成太郎氏は地方部兼勤を命せられたり

●十六日參內者 昌德宮計三十八人內婦人六人主殿院卿李謙濟、侍從院副卿李會九、德壽宮計七十五人內婦人二十二人侍從長金秦熙等なり

●學生團体の汽車賃割引 に就ては昨紙概報せしが尙ほ聞く所によれば鐵道管理局に於ては韓國內鐵道に限り兒童生徒及學生等の修學旅行に對し二十人以上の團体にして片道又は往復の哩程二十哩以上の區間を乘車する場合に限り總て普通賃金の半額とし來る二月一日より實施すべしといふ

●平壤日々新報の創刊 平壤居住外谷安治氏は同地大橋宜次郎白石友吉松本强之助多數氏と俱に平壤日々新報なる日刊新聞を創始する筈にて大橋氏は金千五百圓を支出して機械を購入し本月廿日初號を發刊する豫定なり主筆は鎭南日報記者たりし古莊仁太郎氏記者は松村鐵郎氏にして新聞創刊の目的は同地の遊廓及び料理屋の機關たるにありと

●メソヂスト敎會の報 旭町名古屋城內なるメソヂスト敎會にては今回月報第六號を發行したり記者は右月報を一讀して同敎會の益々盛况に赴くを知り大に喜びの情に堪ざるものなり

平壤通信(十五日) 堅氷生

▲居間問題落着 舊臘以來久しく結んで解けざりし日淸輸入商組合と韓國仲買商居間連の組織せる商務社間の紛擾は韓人居間連中の頑迷に依り遂に協約不調に歸し輸入商と一般韓商との間に自由取引を開始せるが其後尙は當事者間には習慣上居間を全廢する時は種々不便少からざるを以て再三更に協議する所あり而して商務社側は自由取引の非認を頑固に主張する爲め協議纏まるべくも見ゑざりしに去る十三日午前より最後の相談會を開き日淸輸入商側より七名韓人居間連より十四名出席の上協議を凝らしたる結果午後十一時に至り遂に各双方より讓歩協定成立せるが久しき間の紛擾も漸く落着を告ぐるに至れり

▲離宮附警官解散 平壤離宮附警衞警察官總巡以下十二名は京城主殿院警官解散の結果として今明日中に警視廳官房主事呼子警視出張來壤の上閔宮內大臣處理の命にて解散式を擧行するよし

▲平壤行運賃特定 我が鐵道廳にては本月一日より大阪神戶より統監府鐵道管理局線行の貨物賃金の割引特定を實行せるが右の內、大阪及び神戶より平壤着の特定賃は綿積絲一個(百七十五斤以內)廳線內も局線內も等しく六十錢、木綿一個(百八十斤以內)廳線內は六十錢、局線內は八十一錢といふことに定まり從來に比し爲に少からざる便宜を來たせり

▲保稅倉庫現在品 平壤保稅倉庫に於ける本月上旬の取扱品は出入共皆無にして現在擔保品は麥粉四百圓のみなりと

▲定期外野演習 當旅團にては下級將校修養の目的を以て一週日一回の定期野外演習を爲す事となり其第一回は兩三日中之れを行ふべしと

▲實業青年會の活動 當地の實業青年會は久しく活動を爲さゞりしが新春を迎ふると共に當地氣運の推移に連れ愈々來る十八日午後四時より淸閑なる三根旅館の別室に於て定期總會を開催し席上趣味ある種々の議論を交換し且つ會員一堂の下に晚餐を共にするとの事なれば定めて盛況ならむ

月旦三十行 予の見たる仁川紳士 隱法士

桑野良太郎君

君は千葉縣の人、而して常識の尤も發達した人である、君は若年には隨分苦勞もし苦學もした人だそうだ、世人は仁川紳士を以て一概に没常識なものであるといふが、予の見たる君は世人の所謂仁川紳士ではない、君は仁川に於て事を起すや、或時は失敗地に塗れて非常の苦境に陷つた事もある、然も再三ある、君は事に敗るゝ毎に益々奮進した、而して遂に今日の成功を收めたのである、君は實に奮闘の人である、而して君は尤も頭の進歩した商業家である、君が嘗て米豆取引所に於て常に一方の驍將であつた如くに、商機を見るの敏にして商略の巧みなる實に驚くべきものがある、曩きに秋田商會の顧問として其辣腕を揮つたが、當時秋田君の事業は概ね君の頭から生み出されたのだ、公職としては民會議員をして居るが、議場に於ける君の辨舌を聽たものは商人としての君の意外に博識にして強情なる君を知る事を得る、君は實に強情な人である、即ち自信の深い人である、人が何と言ふとも自己の信ずる所は斷じて枉げぬ、故に割合に敵が多い樣だ、予は君の欠點を強いて云へば自分を以て人を押す念慮即ち自分が一事物に對する觀察は他もそうであらうといふ念慮が餘り強過ぎて往々人の爲めに事を誤らるゝ事がある樣だ、終りに君は非常の讀書家である事も云ふて置かう(妄評多謝)

世の手本とすべき人 (四十年間百里の途を墓參す)

静岡縣駿東郡御厨村の大乘寺に安政年間以來四十餘年一年も缺さず播州明石より杖を便りに墓參する一人の盲人あり名を竹内左右衛門(七十六)といひ兵庫縣明石郡玉津村字小山の大農なるが何故斯く遙々と年を缺さず參詣の杖を曳くかといふに過ぎし安政六年三月當佐右衛門の父佐右衛門が妻諸共善光寺參詣の途に上りしに計らずも病を得て前記御厨村字水土野村に來掛れる籠中にて敢なくなりしより妻はおろおろ涙を呑て其領分なる須走村の名主某に願出でゝ救助を求めしも當時行路病者を非常に厄介視して一向取合はぬ風習あり爲めに名主は若者をそゝのかして患に沈める妻を隣村なる仁杉村の郊外に追立てしめしが折柄同村の名主伊倉吉右衛門が通懸り憐に思ひ種々心を碎て屍体を前記の大乘寺に葬らしめしに永の看護と浪枕、非常に疲勞せる妻女に一人の僕を添へて其郷里に送らしめたり、此由國に在りて聞知りし亡佐右衛門の長男當佐右衛門は吉右衛門の恩義に感泣すると共に父の死を傷むこと甚だしく三七日をはるや先塋を仁杉村の大乘寺に弔ふことゝせしが其後歳々怠らず墓に額きさては吉右衛門を訪うて昔語りに袂をしぼりつゝありしに佐右衛門は今より六年前より眼疾を患ひて盲目となりしにぞ忰吉藏(四十)が代つて墓參せし處卅五年より又も自身にて墓參する事となり大乘寺へ五百圓を喜捨するのみならず伊倉吉右衛門氏が一朝の失敗を招きし際千金を融通したる證書に熨斗つけて吉右衛門の息子守太郎氏に進物として昔日の恩に報ゆる等善根を施し居るもさて其風貌は一見田舍の水呑百姓の如くなりと

●僞造貨頻々 通川税務主事白成洙が同地郵便局へ納入せし公金中より僞造五錢白銅貨九個及び同地居朴尙敏なる者より爲替金として納入したる金貫中より僞造五錢白銅貨一個を發見したる旨同局より其筋へ報告あり

●廣告新報の發行延期 日韓廣告新報は十五日發行の處社務整理の都合に依り來る二十日より發行することゝなれり

●天然痘の流行 は日を逐ふて猖獗を極め當地若草町の御堂梅吉方滯在の川西彌助(二十)もこれに冐されたるが理事廳監獄署内にまで侵入し囚徒錦織金藏も昨日同病に罹れり

●大砲を凌く大男 十一日朝東京本所相生町の力士大砲萬右衛門方へ突然訪ね來りし巨男あり生れは山形縣西置賜郡長井村字新町板垣善之助の長男忠彌(三十)といふ昨冬大砲が巡業中同地の顔役海野長三郎、高橋善次郎兩人が『關取より大きな男がわるが弟子にして遣て呉れぬか』と約束せしより此度訪ね來りしものにて同人は身の丈六尺四寸(大砲より高きこと一寸餘)体量三十二貫目にて大砲の足さ云へば有名な位に圖抜けて大きな足なるに試みに己の穿てる足袋を穿かせんと投出したるに忠彌には小さくて迚も入らず掌も大砲よりは大く腕も亦太し、聞けば國に在る頃米俵の取扱ひを爲すに俵の結びを隻手にて摑みて輕々と動かし居たりとの事なれば膂力の非凡なることは云ふ迄も無かるべし彼は十三日朝より尾車部屋にて稽古を始むると云へば近來の見物なるべく二代目大砲との評判は早くも回向院界隈に起り居る由

●主事自殺を圖る 南署小公坊二十九統三戶に居住する度支部主事田昌鎮(三十九)は苟も官職にあるにも拘はらず品行不良にして從來酒色の爲めに失態を重ぬること屢々なるより兩親及び家妻等は常に之を發ひ隙を見ては懇々と意見を加へ來りしも更に改悛の狀なきのみか益々放蕩を極むるより家内の者も呆れ果て此の先きは唯本人の自由に任す外詮方なしと諦め居りしに近頃に至り本人何に感じてか大に其の非行を悔ひ謹愼の樣子なるより一同も安心し先つ此の有樣ならばと胸撫で下ろせしが一昨日は何時の如く役所より歸りて吾が部屋に入りしに稍々ありてサモ苦しげなる唸き聲の聞ゆるより家人は何事なるかと急ぎ其の部屋に至りしに這はソモ如何に今や田昌鎮は虚空を掴んで七轉八倒の最中なりければ家人は早速使を以て安東といふ醫師を向へしめ應急手當を施せしがツマリ同人は自己が平素の放蕩を後悔し改悛の申譯として多量の阿片を仰ぎ自殺を圖りしものなりといふ

●醉漢途上に闘ふ 福岡縣田川郡弓削村の生れなる大工職松原常吉(二十)は去る十六日何れにて飲みしか知らねど醉ぱらひとなりて永樂町二丁目の下宿屋森永喜三郎の宅前に於て通行の者に突き當り例の如く喧嘩を始めて同町の中野太兵衛の弟平治(二十)の脊に咬みつきスワ喧嘩といふより彌次馬連これに加はり常吉は更らに懷中せる短刀を振り翳して若草町一丁目の石工職山口龜吉方に滯在せる滋賀縣栗田郡草津村の稲生竹次郎(二十)に負傷せしめ一應其の場は逃走せしが時を移さず機敏なる警吏の手に逮捕せられたり

●出火 旭町三丁目の入田岩吉といへるは宮内府の官吏にして留守居には其の妾なる千代子(十五)が只一人なるが十六日午後二時頃千代子は炬燵を調べて湯屋に至りしに如何にせしか其の炬燵より出火し既に大事に及ばんとせしを近隣の土木請負業井上久藏が早くも氣付き戶締を叩き毀はして飛び込み消し止めたりと

●浮浪者 東京市麹町區飯田町四丁目の者と稱する横澤一郎(四十)は昨十七日當地永樂町一丁目附近をぶらつき居るを査公に捕へられ浮浪罪として十日の拘留に處せらる

●千餘圓の強盜難 去る十四日夜當地黃土峴一統九戶金榮培方へ強盜三名押し入り一人は短銃を携へ一人は短刀を以て家人を脅迫し日貨千百圓を強奪し去れりと

●ひろひ物 若草町十三番戶の鹿留より『陸軍御用電話四七山口、山本』と襟印を入れたる法被一枚を發見したりとて同戶主より屆出たり心當りの者はなきか

●自轉車が走る は當前のことであるが大和町二丁目の濱村庄左衛門方にては所有の自轉車を庭に仕舞ひ置きたるに十六日午後十時より十七日朝までの間に於て何れにか逃げ走りたりと

●羽織を持つて十六里を走る 住所不詳岡本龜吉といへる者一昨十六日京義線新幕に於て他人の羽織を拐帶し京城に走れること同地巡査の聞く處となり跡追ひかけて來り漸く當地に於て捕へたりしが兩人とも機根の能きものといふべし

●板の間稼の大手柄 舊臘以來湯屋の盜難頻々なるより當地本町警察署にては同業者に嚴重に諭告する所ありて各湯屋とも近頃大に注意を拂ひつゝあるに南山町一丁目の西川好之助の妻リヨウは去る十六日の午後七時頃他より歸りがけ南山湯に到り沐浴を濟してさて衣服を着けんとして見ると脫ぎて入れ置きし戶棚空蟬の殼となりて黑縮緬の羽織(代五十圓)小紋縮緬の長着(代三十圓)絹更紗の下着(代二十圓)友仙の長襦袢(代二十五圓)の行衛不明なるより其の取調方を板台の者に迫れど『無ければ仕方がありませんナー』といつて一向取合はず其の爲めに時刻を移して全く搜索の手掛りを失ひたれば何分警察署に於て御詮議下さいと昨日被害者より屆出たるより南山湯主は呼び出されて眼の玉の飛び出るほど叱りつけられ這々の体にて引下りたりと

●仁川歌舞伎座の只の人 仁川歌舞伎座に於ては今晚朝鮮タイムス揭載の只の人を演ずる由なるが觀覽者の内同紙に摺込みある割引券を持參するものに對し木戶錢を半額にすべしといふ

●歌舞伎座の藝題 同座本日の藝題は菊地幽芳作乳姉妹にして重なる役割は左の如し 松平照信(岩尾)三室滋(千島)百合子(橘)松平照定(大町)綾小路大尉(千代田)田川たはま(淺井)松平君江(東)松平房江(高木)家令高林(瀬川)戶田男爵(正月)高濱勇(小喜多村)